

## 早月中学校区保護者を中心とする皆様からの提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	R3夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
①ウォーキングサッカー	富山県は障がい者サッカーは環境が整っておらずレベルが低い。最近、滑川市ではウォーキングサッカーが盛んになってきているので、障がい者の方へも声をかけてサッカーをする機会を提供できないか。令和3年度も9月26日にウォーキングサッカーの大会があるということなので、是非、障がい者の方も一緒にウォーキングサッカーができるようにしてほしい。また、ウォーキングサッカーの今後の展望も聞かせてほしい。	川淵三郎さんが滑川市に来られたことをきっかけに始まったウォーキングサッカー大会は、令和3年度で3回目になります。身体に負荷をかけずに楽しめるスポーツということで市内で普及啓発に努めており、現在は高齢者を中心に少しずつ活動の輪を広げているところです。障がい者の方への参加については、福祉介護課や関係機関などと連携して勉強していきたいと考えています。
②タブレット	1人1台のタブレットを持ち帰るための誓約書を子どもが持ち帰ってきた。PTAの会議では1台10万円のを壊したら弁償が必要であるという点を不安がる声が大きかった。恐らく保護者が何故子ども1人に1台のタブレットが必要であるのかを理解できていないからだと思う。自分は富山大学の林先生から教育環境の変化とICTの活用という講演を聞いて納得したのだが、保護者向けにオンラインでの説明会や配布物などの方法でも、1人1台タブレットの必要性などを説明できないか。	富山大学の林誠一先生には、理数教育推進協議会に来ていただいたり、アドバイスをいただいたりしています。1人1台タブレットを推進したのは、国際社会の中ではIT関係を進めていかないと、これからの世界で太刀打ちできないため、子どもたちにはそういうリテラシーをつけていくこととしたという経緯があります。ただ、タブレットについては特別なことではなく、子どもたちが探究的な学習をするための道具として使っていくということが有効利用する方法の一つと考えています。例えば、デジタル教科書としての利用や、昆虫や植物の写真を撮っての観察、板書での発表の代わりにノートに書いたものをタブレットで写真に撮ってみんなに送ることで、意見交換を行うなど、学校によって活用方法は様々です。タブレットについてはコミュニケーションツールとしての活用方法などについても、保護者に発信していかないといけないと考えています。
③学校での指導	PTAの活動方針として、子どもは「家庭で育てて学校で鍛えて地域で磨く」という考え方がある。学校には是非「鍛える」というところに力を入れて、子どもたちに我慢をさせることを教えてほしい。先生たちには是非強い立場での指導をお願いしたい。	強い立場でという訳ではありませんが、先生たちは皆、強い信念を持って子どもたちを指導しています。子どもたちのために厳しくしなければいけないことは厳しくしますが、今の子どもたちは厳しさだけでは成長が望めないところがあり、子どもたちの気持ちに共感しながら指導をしていくこととしています。学校だけでは指導が難しいこともありますので、保護者や地域の皆様とも協力しながら、子どもたちを育てていきたいと考えています。
④北加積小学校のグラウンド	令和元年度にも要望しているようだが、北加積小学校のグラウンドの水はけが悪い。雨が上がった時に、寺家小学校ではクラブ活動ができていても、北加積小学校はグラウンドの状態が悪く、実施できない。グラウンドの状態を改善してもらいたいのだが、現在の進捗はどうなっているのか。	北加積小学校のグラウンドの状態については、野球部の利用している辺りは砂が飛んでしまって固くなっており、反対に海側は草が生えてぬかるんでいると把握しています。砂を表面に入れるだけでは風で飛んでしまい、グラウンドの改良にならないため、解決方法を模索しているところです。時間がかかって申し訳ありませんが、もう暫くお待ちください。

## 早月中学校区保護者を中心とする皆様からの提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	R3夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑤通学路の安全	先日も県外で通学中の子どもの列に飲酒運転のトラックが突っ込むという痛ましい事故があった。そこは危険性を認識しながら、ガードレールを設置していなかったとも言われている。滑川市は対応が早いと思っているのだが、早月中学校区で危険性を認識している通学路はあるのか。	学校やPTA、見守り隊を含めて通学路点検を実施しています。8月にまた通学路点検を実施する予定です。